

サツマイモでナカジロシタバの発生が多くなっています 早めに圃場を観察して、防除適期を逃さないよう注意しましょう

[発表の内容]

作物名 : サツマイモ
病虫害名 : ナカジロシタバ
発生量 : 多い
発生地域 : 県下全域

[発表の根拠]

- ① 8 月下旬現在、被害つる先率は平年より高く、寄生虫数は平年より多い (表 1)。
- ② 例年 9 月に被害つる先率及び寄生虫数が増加するが、本年は 8 月下旬時点で高い値を示しており、今後も高く推移すると予想される (図 1, 図 2)。
- ③ 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

表 1 サツマイモのナカジロシタバの発生状況 (平成 30 年 8 月下旬調査)

| | 本年値 | 平年値 ¹⁾ | 順位 ²⁾ |
|-----------------------------|------|-------------------|------------------|
| 被害つる先率 ³⁾ (%) | 84.8 | 7.0 | 1/8 |
| 寄生虫数 (頭/100葉) | 15.6 | 0.2 | 1/10 |

1) 被害つる先率は、過去 7 年の平均値。寄生虫数は、過去 9 年の平均値。
2) 本年を含む過去の調査年数における本年値の順位。
3) つる先 25 か所中の被害の割合。

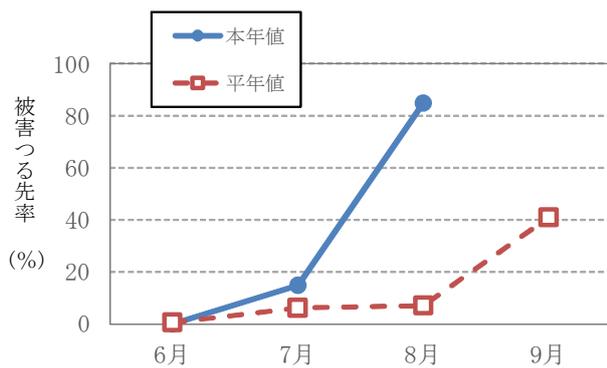


図 1 サツマイモのナカジロシタバの被害つる先率の推移

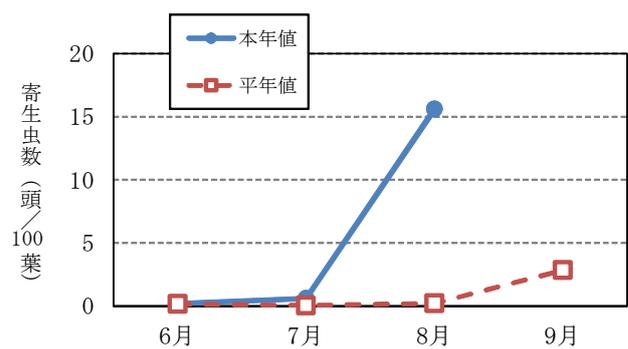


図 2 サツマイモのナカジロシタバの寄生虫数の推移

[防除対策]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期 (つる先, 上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期, 図 3, 4) の防除に努める (表 2 参考)。本年は気温が平年より高く推移しており、8 月下旬の被害つる先率もすでに高い値を示しているため、早めに圃場を観察し防除適期を逃さないように注意する。
- ② 薬剤は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

[ナカジロシタバの生態等]

- ① ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害する害虫である。若齢幼虫はつる先の若い葉を好んで食害し、老齢幼虫になると摂食量が増えて急激に被害が拡大する。多発生すると、短期間で葉脈・葉柄だけを残して葉を食べつくすこともあり、サツマイモの収量・品質低下につながる。
- ② 年3回発生し、発生量は8月以降に発生する第3世代幼虫がもっとも多くなる。
- ③ サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になることもある。



図3 ナカジロシタバ中齢幼虫



図4 ナカジロシタバによる初期被害

表2 サツマイモ（かんしょ）のナカジロシタバに使用できる主な薬剤（平成30年8月8日現在）¹⁾

| 薬剤名 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 有効成分の種類 | 同左毎の総使用回数 | IRACコード ²⁾ |
|-------------|----------|---------|------------|-----------|-----------------------|
| マッチ乳剤 | 収穫14日前まで | 2回以内 | ルフェヌロン | 2回以内 | 15 |
| アグロスリン水和剤 | 収穫7日前まで | 5回以内 | シペルメトリン | 5回以内 | 3A |
| トレボン乳剤 | 収穫7日前まで | 3回以内 | エトフェンプロックス | 3回以内 | 3A |
| アクセルフロアブル | 収穫前日まで | 3回以内 | メタフルミゾン | 3回以内 | 22B |
| アニキ乳剤 | 収穫前日まで | 3回以内 | レピメクチン | 3回以内 | 6 |
| オリオン水和剤40 | 収穫前日まで | 5回以内 | アラニカルブ | 5回以内 | 1A |
| フェニックス顆粒水和剤 | 収穫前日まで | 2回以内 | フルベンジアミド | 2回以内 | 28 |

1) 使用方法「散布」の登録内容

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

(注意事項)

- ・農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用方法、注意事項を必ず確認する。